

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 夢門塾ゆうゆう御幸			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	絵カードや掲示物を活用した視覚的に分かりやすい構造化環境が整っており、子どもが安心して活動に参加できる環境づくりができています。活動内容や子どもの状態に応じて部屋の使い分けを行うなど、柔軟な環境調整が評価されています。保護者からも「分かりやすい」「安心できる」と高い評価を得ています。	支援開始前・終了後の打ち合わせや申し送りを通して、支援内容や気づきを職員間で共有し、PDCAサイクルを意識した業務改善を行っています。チーム支援が機能しています。	アセスメントや支援記録の整理を進め、支援の見える化をより一層高めていきます。
2	アセスメントを丁寧に行い、保護者の思いや子どもの発達状況を踏まえた個別支援計画を作成しています。児童発達支援管理責任者を中心に、全職員が支援会議に参加し、計画に沿った支援を実践できている点は大きな強みです。	活動プログラムが固定化しないよう、季節行事や子どもの興味・関心を取り入れた企画を職員全員で検討しています。自己選択・自己決定を大切にした支援が実践されています。	外部研修や専門機関との連携を継続し、職員の専門性向上を図っていきます。
3	保護者との信頼関係が非常に良好で、「安心して通えている」「楽しみにしている」「共感的に関わってもらえている」といった声が多く見られます。日々の振り返りや写真共有、丁寧な説明が、安心感につながっています。	家族参加型行事や保護者交流会を開催し、家族支援にも積極的に取り組んでいます。ペアレントトレーニングや講演会情報の提供など、家庭との連携を重視しています。	保護者が参加しやすい形での家族支援や情報提供方法を工夫し、家庭との協働をさらに深めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数が多い時間帯には、活動スペースがやや狭く感じられる場合があります。	施設規模と利用人数のバランスにより、時間帯によって環境調整が必要となっています。	活動スペースの使い分けや時間帯調整を行い、安心して過ごせる環境づくりを継続します。
2	職員配置について、保護者から「もう少し余裕があると安心」という声の一部見られます。	職員の急な欠勤や配置変更時に、負担が集中する場合があります。	職員体制や役割分担を見直し、支援の安定性を高めていきます。
3	第三者評価や外部スーパーバイズの機会が限定的です。	外部評価については、実施方法やタイミングの調整が課題となっています。	外部研修・第三者の視点を取り入れ、より質の高い支援につなげていきます。